

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2173100583		
法人名	医療法人 浅野会		
事業所名	桜ヶ丘グループホーム		
所在地	可児市桜ヶ丘6-73-11		
自己評価作成日	平成29年12月6日	評価結果市町村受理日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=2173100583-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成30年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人のクリニックが隣にある事から、医師との連携が十分に取れており、安心して生活が出来る。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員が、率直な話し合いの出来る関係にある。どんな時も、「自分ひとりで考え込まない」とし、皆に投げかけ、意見を聴き、「まず、やってみよう!」の精神が職員を前向きにし、利用者を大切に作る姿勢に繋がっている。また、毎月、担当の職員が、居室の手作りボードに、その月の花や行事予定等を工夫しながら飾り付け、利用者は自分や縁のある人の写真、言葉等を飾っている。常に、利用者一人ひとりの人生と思いに寄り添い、その生活空間を、明るい雰囲気でも満たしている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営推進会議を開催して外部との交流を図り、理念を共有している。	職員は、個人の尊厳を基本とする理念の意義を理解している。職員会議の中で、理念に沿ったケアについて話し合い、ミーティングや申し送りで確認し、利用者個々の有する力を活かした、安心した暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの皆さんの来設や利用者様の外出、外食等での地域との交流を図っている。	社会福祉協議会が行う節分行事で、事業所にも鬼が訪問し、豆まきを楽しんだり、公民館祭りには、利用者の作品を出展している。いきいきサロンや、「みんなの家」へは、行ける人が職員と共に参加するなど、地域との交流が活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は行えていないので、今後は行えるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、その都度行った行動等を報告し、話し合いの中で向上に繋げて行っている。	年2回の防災訓練を、運営推進会議と併せて行っており、自治会長、民生委員等を通し、災害時に地域住民の協力を得られるよう、話し合っている。会議の中で、介護保険制度について、参加者からの質問があり、行政より、解りやすく説明してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催の際に話し合っている。	行政や地域包括支援センター、社会福祉協議会の職員が、運営推進会議に参加している。事業所運営について、理解を得ており、救急搬送についてや対応に困った時、気軽に相談でき、アドバイスをもらえるなどして、サービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り等の強化を実践している。	職員は、身体拘束及び、拘束による弊害について理解している。使ってはいけない言葉を無意識に発していないか、拘束に繋がってしまう行為ではなかったか、職員間で互いに注意し合い、話し合いながら、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の状態の変化に気付き他の職員と共に対応している。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に利用者様の変化を把握し、ご家族とのコミュニケーションを図り、制度利用の活用を考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の十分な説明、理解を図り、常時、料金改定時は文章にてご家族に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議を設けて、ご家族の意見を伺っている。	家族の面会時や行事参加には気軽には話してもらえるよう雰囲気作りが心がけている。利用者が重度化した時の対応について、不安を感じている家族には、その都度、丁寧に説明している。	家族には、運営推進会議への参加を呼び掛けているが、個々に事情があり、参加が得られていない。参加につなげ、家族としての意見を出してもらえる場になることに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場職員の意見を十分に聴いてくださり、早急な対応又向上に努めてくれている。	自己評価及び外部評価結果を基に、会議で話し合い、職員は意見や提案を出している。浴槽やトイレの要所に手すりの取り付け等が提案され、出来る事から改善に繋げている。また、家族の協力により、電動ベッドや車いすの購入、レンタルがされている。	トイレの手すり取り付けが継続課題となっている。職員からの要望を受け止め、運営に反映させるよう努められたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者を通じ、現場の声を聴き入れ向上に取り組んでくれているが、満性的な人手不足から有給などとりづらい状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の人数が少ない為、研修日をシフトに組み込むのは困難な状況である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の声は職員全員が周知出来るようにしている。又、必要に応じご家族様に連絡を取り、報告、協力を得ながら利用者様が安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を聴く、受け止める事に重点を置き、良好な関係が築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今必要なサービス、支援を見極め、事業所として出来る限りの対応をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に過ごし、学び、支えあう」関係を築ける様努めている。時間をかけて深く本人を知ろうとする姿勢を大切に、関わる努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活を共に支援していく上で、対等な関係が築けるよう努めている。本人の生活について家族に相談するなど職員が抱え込まないようにもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にご協力頂き、可能な範囲で外出や面会等行っている。又出掛ける機会もつくるように支援している。	事業所を訪れる家族や親戚、継続しているボランティア等との関係を大切にしている。訪問時には再来につながるよう声かけしている。併設のデイサービス利用者に、届け物を持って行ってもらうことで、知人との出会いの場面作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の関係が上手くいくように職員が間に入り、より良い関係になるようにする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の利用者様の身体状態に合った毎日が苦痛に思わない転居先(施設)を考えて差し上げる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意向を最優先に聞き入れる。聞いても無理な場合は日常の行動を見て、職員で相談する。御家族にも意見を聞いてみる。	職員は、個別の対応を工夫しながら、利用者の思いを把握することをサービスの基本とし、食べ物の好みや、これまでの生活スタイル、性格等を理解し、本人が満足できる暮らし方に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人の話をお聞きし、なおかつご家族に経過、個々の歴史をお聞きする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同志が情報を共有し、日々の状況を把握しておく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活支援、介助を通じて日々の様子、変化にも常に気付けるよう心掛けている。ご家族様に報告すべき事は報告し、ご本人の意志、ご家族様の意向も尊重し介護を実践している。	利用者や家族の意向、医師の助言、生活全般の解決すべき課題等を反映させた介護計画を作成している。利用者の状態変化に合わせて、家族と相談し、柔軟に見直ししながら、その人らしい暮らしの支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どのスタッフが対応してもわかるように、日々の様子、ちょっとした変化、体調の変化等に入念に記録し、情報を共有している。その為、介護の実践や計画の見直しにもいかせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様がしばらく来所できないと申告されていたり、来所できる日が限定されていたりする事もあり、散髪や消耗品の補充の協力をしている。		

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協の方が運営しているみんなの家へおじゃまさせて頂いたり、節分会に来て頂いたり、小学生の訪問を受けたりしている。地域の方と一緒に消防訓練も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が施設の先生である為、利用者様のより正確な体調管理が出来ている。月2回の往診により、利用者様も安心して適切な医療を受けられるように支援している。	希望により、利用者全員が協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。訪問看護も週2回あり、医師との連携を密に行いながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日来設する看護師と日頃から利用者様の様子は話し合うようにしている。変化があった時には、診て貰い、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院時には介護サマリーの提供をしたり、日頃の様子を理解して頂き、入院生活がスムーズになるようHPとの関係づくりを行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期のあり方は、ご家族様、主治医、施設長などで十分に話し合い支援している。	契約時に、重度化や終末期に関する事業所の方針を説明し、家族の同意を得ている。利用者が口から食事が摂れなくなった時を、事業所での利用限界とし、医師、家族等で話し合い、方針を定め、不安ないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、すぐさま主治医に電話で指示を仰ぎ、勝手な判断はしない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を行っている。地域の人々との協力も仰ぎ災害時に備えている。	年2回、運営推進会議と合わせて、消防署立会の下、夜間想定や、火元を変えての訓練を実施している。行政や地域の役員等が、緊急時連絡網にも名前を連ね、訓練に参加している。2～3日分の水や食料の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室へ入る時は掃除中や業務であっても、ノックや声掛けを行うなど気を付けている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個々の動作のペースを尊重し、日常の整容にも気を配り、その人らしさを大切にしたい支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出が難しい利用者様にも身振りや表情などから思いを汲むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に・・・と心掛けてはいるが、食事や入浴などはつい急がせる様な声掛けになりがちである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	福祉マニュアルなど出来る範囲で行っている。とても喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はゼネラルフーズにて調理してもらっているが、食前の台拭きやお盆拭き、食器拭きなど楽しみながらやっていたい。	職員と利用者が、家庭的で和やかな雰囲気の中で、会話をしながら、食事の時間を一緒に過ごしている。朝食はパンとご飯の選択ができ、嫌いなメニューは代替食で対応している。テーブル拭きや食器拭き等、出来る人が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を個人に合わせて提供している。又、食器類にも気を配り、食べやすさ、食欲がわきやすい様盛り付けも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄、歯磨き等、個人に合わせた口腔ケアを自分でできる事をして頂き、出来ない方は職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見計らいトイレ誘導を行っている。利用者様の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行いトイレでの排泄を支援している。排泄チェック表等により、排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりにタイミングを見て声掛けをしている。	全職員が、排泄チェック表で、利用者の排泄パターンを把握し、適切に誘導しながら、トイレでの排泄を支援している。失敗を減らすことで、利用者負担の軽減と、排泄の自立に繋がるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分摂取や適度な運動(体操)をするよう心掛けている。また必要に応じて看護師に相談し、下剤にてコントロールする事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっている為、希望通りのタイミングには行えていない。身体的に入浴が難しい利用者様にはシャワー浴にて対応している。	入浴時間は決まっているが、利用者のその時の気分に合わせて対応している。安全な入浴を第一とし、一人ひとりのペースに合わせてながら、ゆず湯など季節の湯を取り入れ、楽しめる入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活習慣は異なるが、昼夜逆転を防ぐ為に規則正しい生活に心がけ、自宅の様に趣味やお手伝いなどをして馴染みある個人の尊厳を尊重するように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットをする事により、個々の薬を把握し変化や薬の変更があった場合は、申し送りや医療関係者と情報を確認している。服用の際には、誤薬を防ぐ為、日時(朝昼夕)と声に出し防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり楽しみ生活歴が異なるが、無理の無い程度にお手伝いをして頂き、趣味を生かしたり、DSにボランティアが来た時は参加したり生き甲斐や楽しみを見つけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内では、DS、2Fにお届け物を見に行く際には、一緒に行ったり、中庭には畑やお花などがある為、庭に出て気分転換している。四季を感じて頂いている。外出、外食支援に心掛けたい。	事業所周辺の散歩や、中庭での外気浴を始め、個別の買い物、併設施設の訪問等を日常としている。また、併設施設の車を利用しての花見、家族の協力による外出、外泊等、戸外へ出かける機会を多く持てるよう支援している。	

岐阜県 桜ヶ丘グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々管理するお金はないが、預かり金がある為、買い物をしたり、楽しみを見つけ出す事も大切だと思う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から「電話を掛けたい」と申し出があった場合に、SRにて掛けて頂いている。ご家族様に伝えたい事、声が聞けた時は嬉しそうなお顔が見られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設なので明るいほうが良いが、廊下や食堂が暗く、利用者様からも「暗いな」との声がある。トイレは個々に備わっている為、周りを気にせず使用して頂いている。	玄関には、安全に配慮して椅子を置き、季節の花を飾っている。共用空間は広く、利用者は、ゆったりとしたソファで、寛いでいる。壁には季節の共同作品や利用者の笑顔の写真を掲示し、部分照明で掲示物や飾り物が目に付くよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話し合う人同士が仲良くできる様に席替えを時々している。個別レクを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内を覗かれたくない利用者様には、戸の窓にカーテンを作ったりして、ご家族様やご本人様に喜ばれている。	各居室にトイレがあり、クローゼットや洗面台も備えられている。ベッドは個々に持ち込みであるが、寝具はリースで清潔に管理されている。担当職員が、各部屋にあるボードに、その月に合った飾り付けをし、利用者と一緒に部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使用されている方が多い為、テーブル・椅子の置き場に気を付けている。転倒などしない様に見守り、動作の介助、声掛けをしている。		